

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の  
閲覧・購入禁止

バリキヤリ妻、  
堕ちる。

— メス豚File —

名前: 笹倉 愛美 (Sasakura Emi)

身長: 165cm

スリーサイズ: B98(G).W61.H90

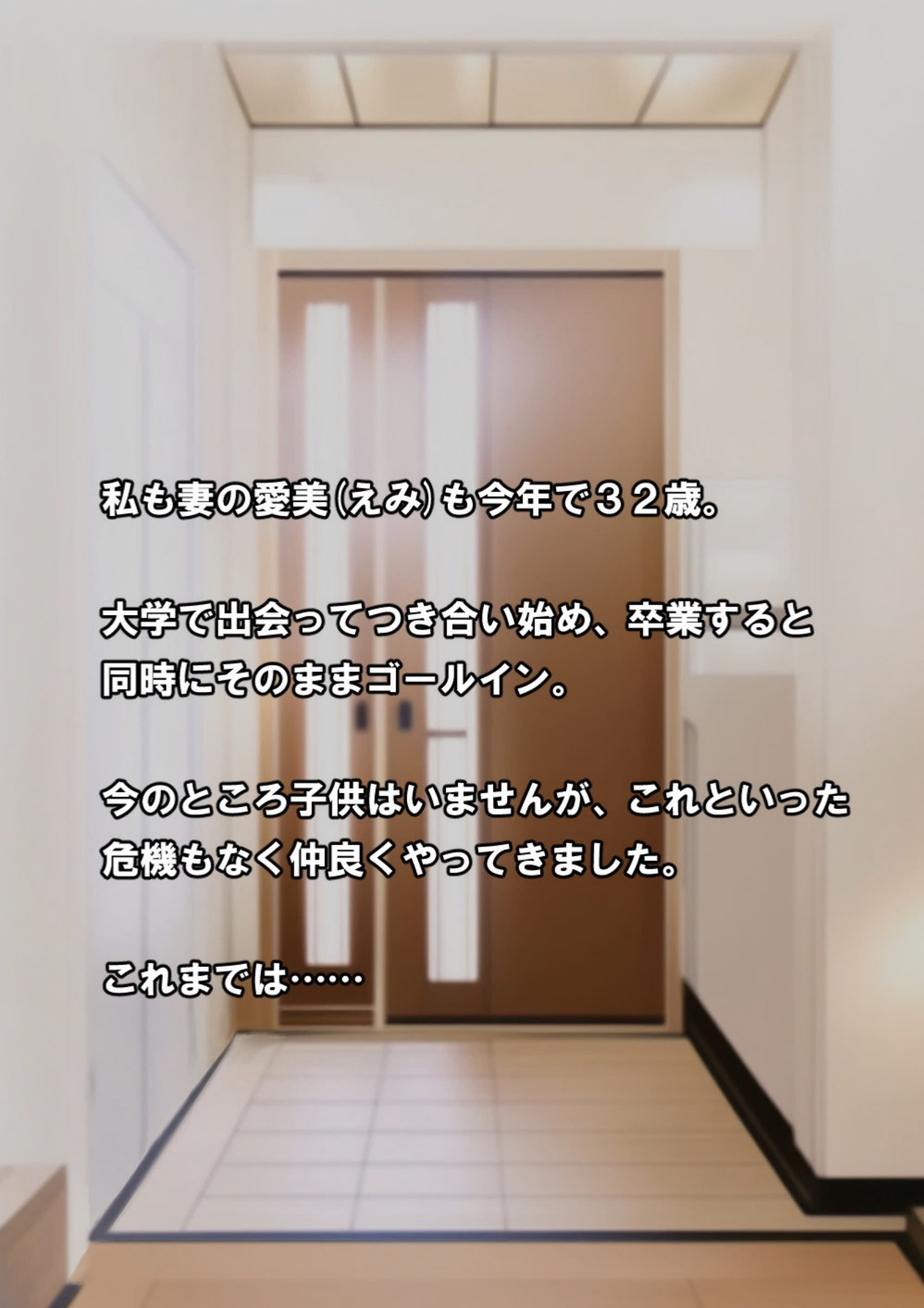
星座: 双子座

趣味: カフェめぐり、スカイダイビング

それは、ある夏の出来事でした。





A perspective view of a hallway with light-colored walls and a tiled floor. At the end of the hallway is a closed wooden door with two vertical glass panels. The ceiling has recessed lighting.

**私も妻の愛美(えみ)も今年で32歳。**

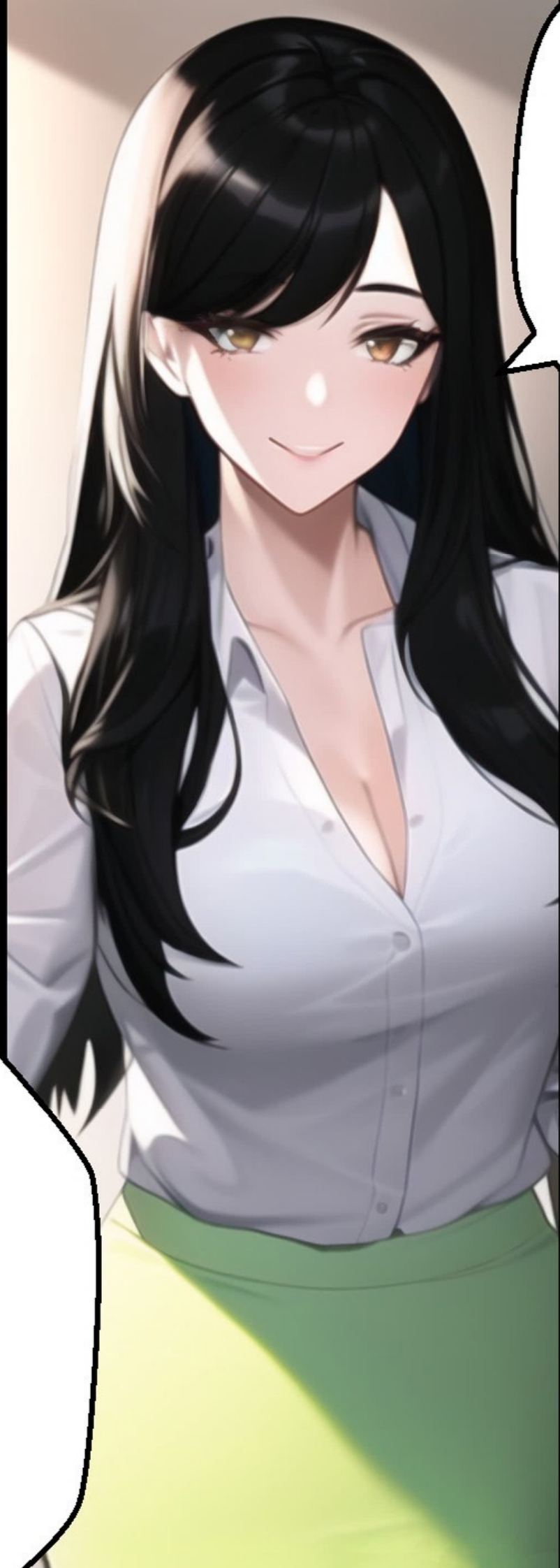
**大学で出会って付き合い始め、卒業すると同時にそのままゴールイン。**

**今のところ子供はいませんが、これといった危機もなく仲良くやってきました。**

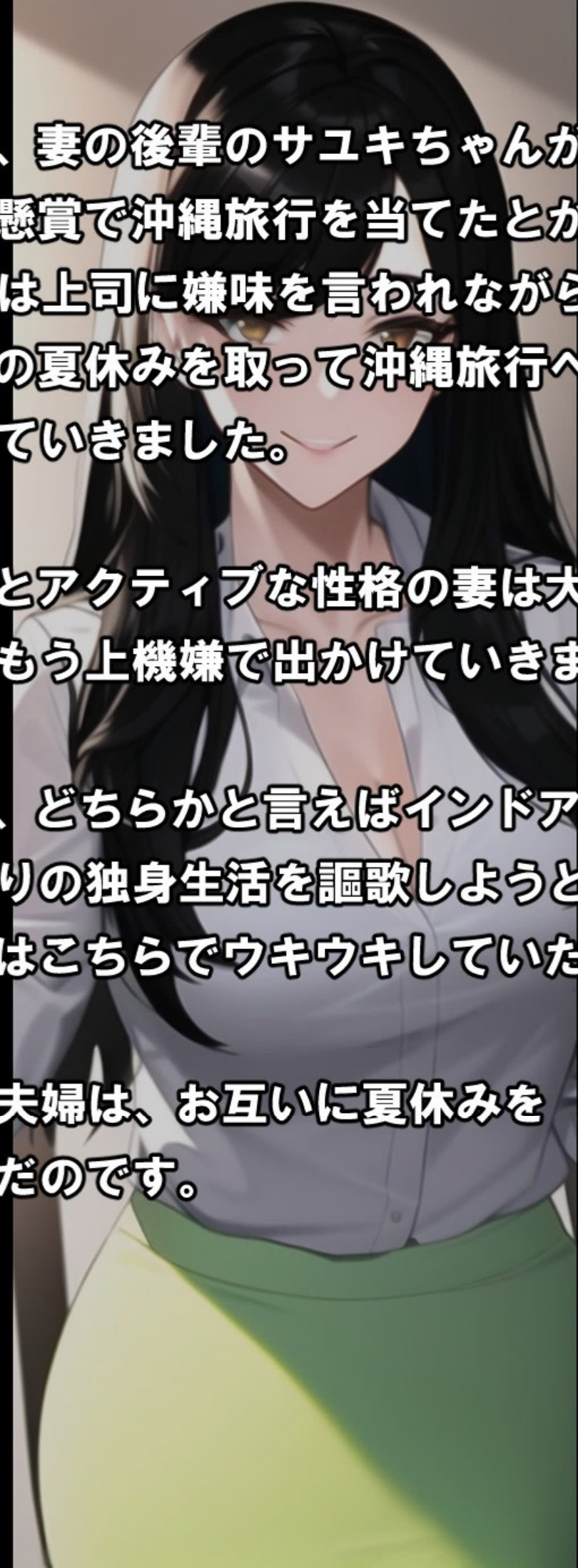
**これまでは……**

いってきまーす

いってらっしゃー！







その夏、妻の後輩のサユキちゃんがWEB懸賞で沖縄旅行を当てたとかで、彼女達は上司に嫌味を言われながらも1週間の夏休みを取って沖縄旅行へと旅立っていきました。

もともとアクティブな性格の妻は大喜びして、それはもう上機嫌で出かけていきました。

そして、どちらかと言えばインドア派の私は、久しぶりの独身生活を謳歌しようと、こちらはこちらでウキウキしていたりして。

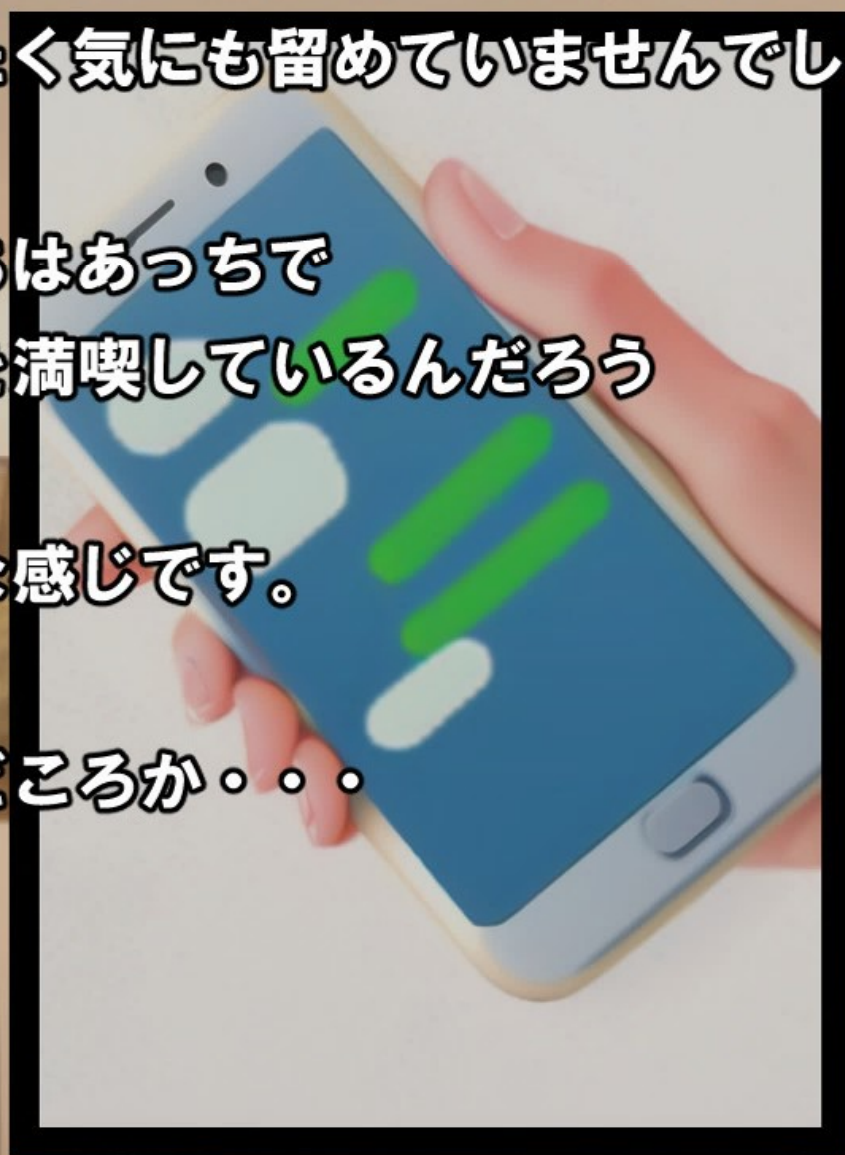
私たち夫婦は、お互いに夏休みを楽しんだのです。

初めこそLINEでやり取りをしていたものの、  
気がついたらやり取りがなくなっていて、  
だけれども、怠惰な生活を謳歌していた私は  
まったく気にも留めていませんでした。

あっちはあっちで  
沖縄を満喫しているんだろう

そんな感じです。

それどころか・・・





昔、妻に隠れてコレクションしていた  
お気に入りのDVDを、私に無断で全部  
処分されたことがあった。その意趣返しと  
いう訳ではないけれど、リビングで堂々と  
オナニーしてやりましたとも。

正直、リビングのデカイテレビ画面で見る  
ムフフな動画は最高で。  
これぞ一人暮らしの醍醐味だといっても  
いいかもしれない。

陰キャな喜びに浸りつつ、私はシコニスト  
として大いにハッスルしたのでした。









そして1週間後.....






ただいま〜♡

お帰り！

沖縄はどうだった？






すごく良かった！  
海が本当に綺麗だったよ！！

へー、良かったね

向こうでは何したの？



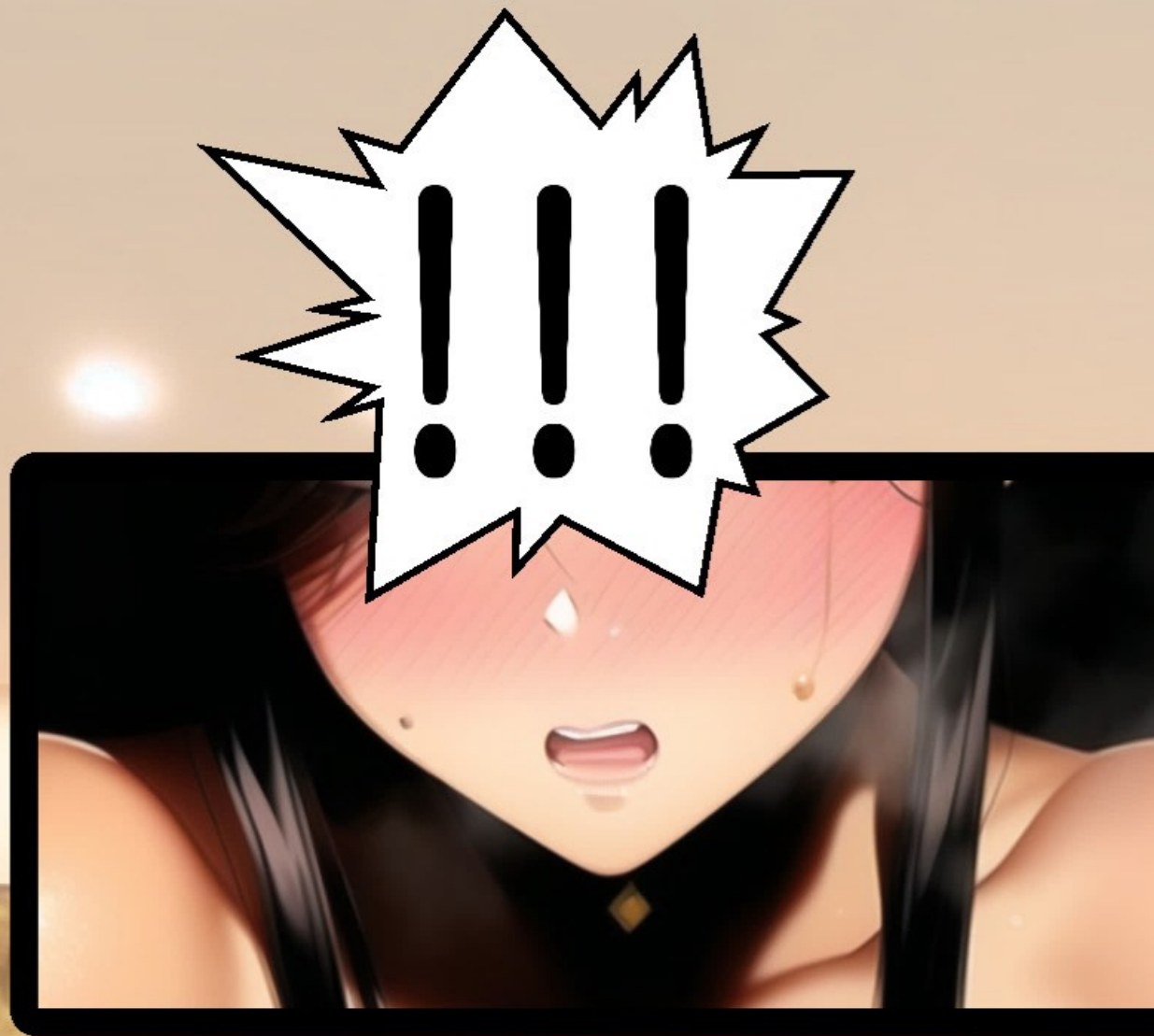
いろんなところ散歩したり  
ビーチでのんびりしたり  
沖縄料理を食べたり・・・とか？



A woman with long, straight black hair and bangs is shown from the chest up. She has a gentle smile and is wearing a white button-down shirt. The background is a softly lit room with warm tones.

楽しそうだね

写メはどんぐらい  
撮ったの？





楽しむのに夢中で  
撮るの忘れちゃった

!?

そっか…  
それは残念!!







その代わり

沖縄土産いろいろ  
買ってきたから

・・・いいねえ

・・・じゃあ  
サユキちゃん  
に感謝だね



ええ

そうね



沖縄旅行から帰ってきた妻の愛美に  
何となく違和感を感じたものの、  
妻が留守の間に自宅でおこなった数々の  
変態行為にうしろめたさを感じていた私は、  
それを深く考えようとはせずに、

「まあ、1週間ぶりに会ったからな」

などと自分を納得させたのでした。



・・・こうして

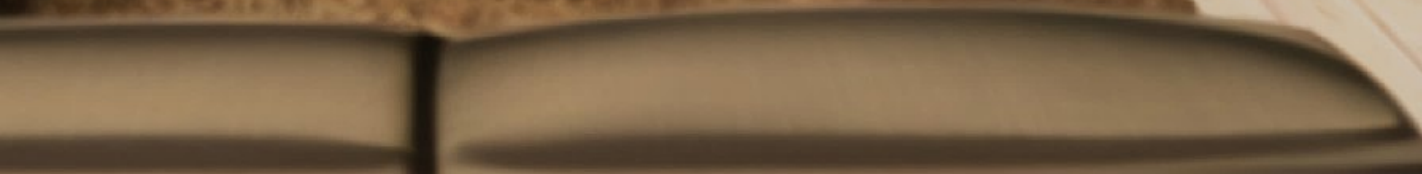
私たち夫婦は、  
またいつもの日常に戻っていったのです。



...

そのはずだった……

それからすぐなんです、  
妻の様子が  
おかしくなっていたのは……





近ごろ  
何か忙しそうだね？

うん  
仕事が忙しいんだ

残業も多いし  
大変なんだよ

そうなんだ……

何かさ、最近いつも  
スマホ持ってない？  
しょっちゅう  
いじくってるし……



!?

えっと……



それはねえ  
会社の用事でスマホを  
持ち歩いているだけよ。  
「Z」はすぐ返信  
しないとまずいから。




あつ  
うわさをすれば

リモートで作業  
しなきゃだから  
部屋に戻るね

バッ  
ッ  
ッ







最近、雰囲気  
変わったね。  
何かあったの？

だって、いきなり  
茶髪にするしさ。  
いままで一回も  
染めたことなんて  
なかったろ？

それは・・・  
何ていうのかな

沖縄の風にあてられた  
・・・みたいなの？

えっ？  
そんなことないよ





なんだよそれ

私、今までそういうのに  
無頓着だったじゃない。  
今回の沖縄旅行でヤバイ！  
って思ったんだよね。

沖縄旅行をエンジョイ  
してる子たち、みんな  
オシャレでさ

このままお婆ちゃんに  
なっちゃう前に  
もっと楽しまなきや  
みたいなさ

そうなんだ

心配させたのなら  
ゴメンね

え、  
ああ……

こっちこそ、  
ゴメンな



仕事が忙しくなってきたとかで、  
しょっちゅう帰宅時間が遅くなる  
・・のはまあしょうがないとして、  
いままでずっと黒髪だったのが  
急に茶髪に染めたり……

香水の香りが変わって、ニオイが強くなっ  
たのも、なんだか私の胸を  
モヤモヤさせました。





えッ!?!?!  
そんな服、着るんだ!?

ああ、この服?

前から持ってたんだけど…  
今日はちよつと冒険してみちゃった!






どうかな、似合う？

ああ、似合うよ  
愛美は何着たって  
さまになるね

ありがと♡



休日になると、いままで見たことがなかった  
若い娘が着るような服で出かけるように  
なったのも、私をゾワゾワさせて……

やんわりと探りをいれても  
はぐらかされるばかりで……

かといって、強引に聞き出そうとして  
夫婦間の雰囲気が悪くなるのも避けたい。

そんな宙ぶらりんの状態が  
私を余計にイライラソワソワさせた。



それは、  
そんな状態が数週間続いた  
ある日のことだった……





その頃になると、私は妻との間に明確な距離を感じるようになっていました。

その日は後輩のミスの尻ぬぐいをしていて、いつもより帰宅時間が遅くなっている。

例によってその日も、妻から残業で帰りが遅くなるというLINEが入っていました。

なんだかそのまま真っ直ぐ家に帰る気分ではなかったので、一駅手前で電車を降りて、のんびりと一駅分歩いて帰ることに。

行き過ぎる人の波をボ〜っと眺めながら繁華街を歩いていると、前方に見覚えのある人影を見つけたのでした。





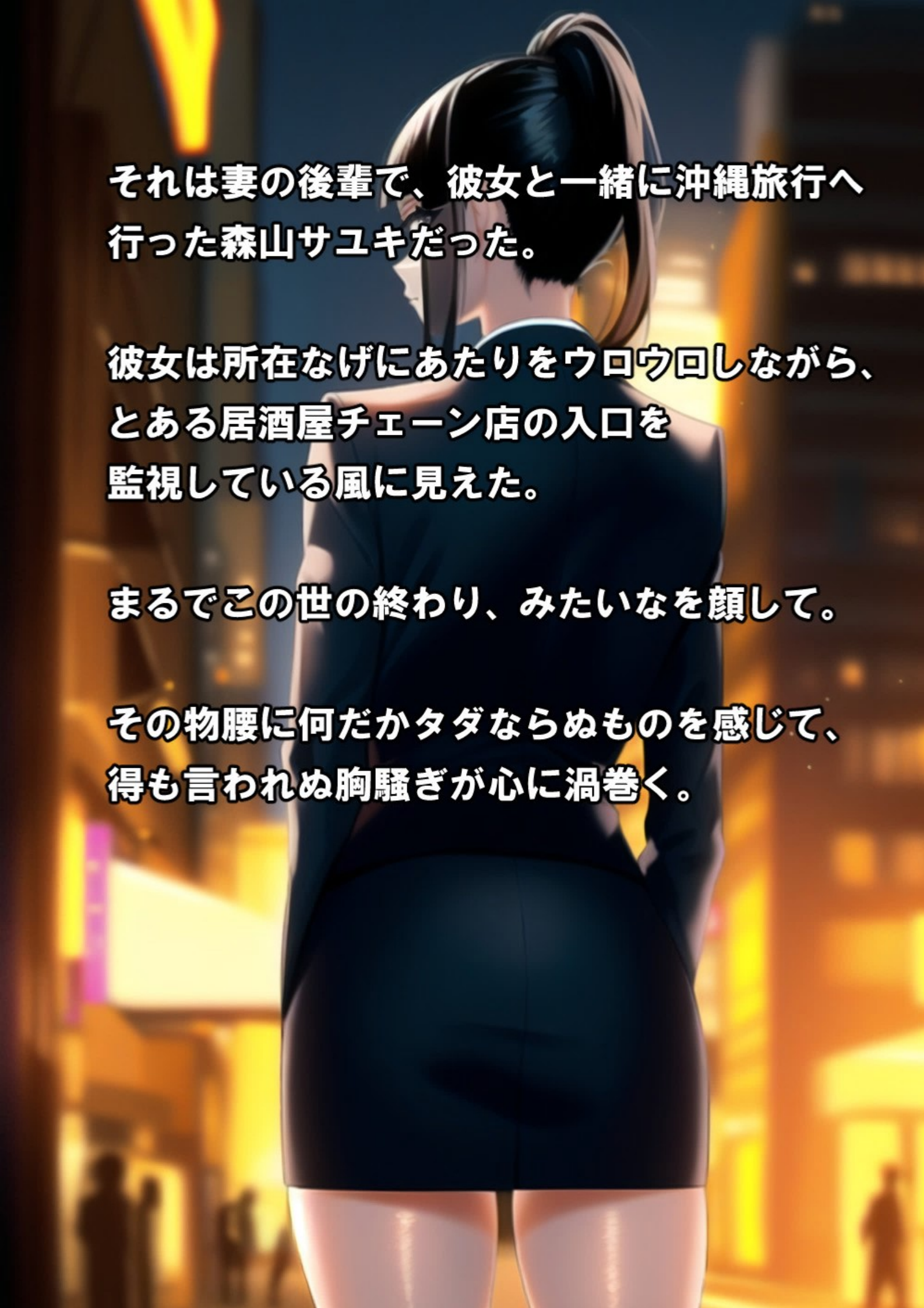
ハイ

ハイ

ガ  
ヤ  
ガ  
ヤ

ザ  
ワ

ザ  
ワ



それは妻の後輩で、彼女と一緒に沖縄旅行へ行った森山サユキだった。

彼女は所在なげにあたりをウロウロしながら、とある居酒屋チェーン店の入口を監視している風に見えた。

まるでこの世の終わり、みたいなを顔して。

その物腰に何だかタダならぬものを感じて、得も言われぬ胸騒ぎが心に渦巻く。



サユキちゃん？

びくっ





彼女の態度に胸騒ぎが加速してゆく。  
気がつくとは私は、サユキから妻の事について  
何某（なにがし）かの情報を得ようと  
足早に彼女に近づいていた。

ちょうどその瞬間だった。  
妻の愛美が、大学生ぐらいのチャラ男たちと  
居酒屋チェーンから出てきたのは……









私は言葉を失って  
そのままその場に立ち尽くした。

突然の出来事にカラダが硬直し、  
金縛りにあったように身動きする  
ことが出来ません。

男たちと楽しそうにする妻の愛美と  
呆氣にとられる私。そして、  
気まずそうな顔をしたサユキ……

心臓は爆発するんじゃないかってくらいに  
鼓動が一気にレッドゾーンに突入して、  
超高速でバクバクし始めた。

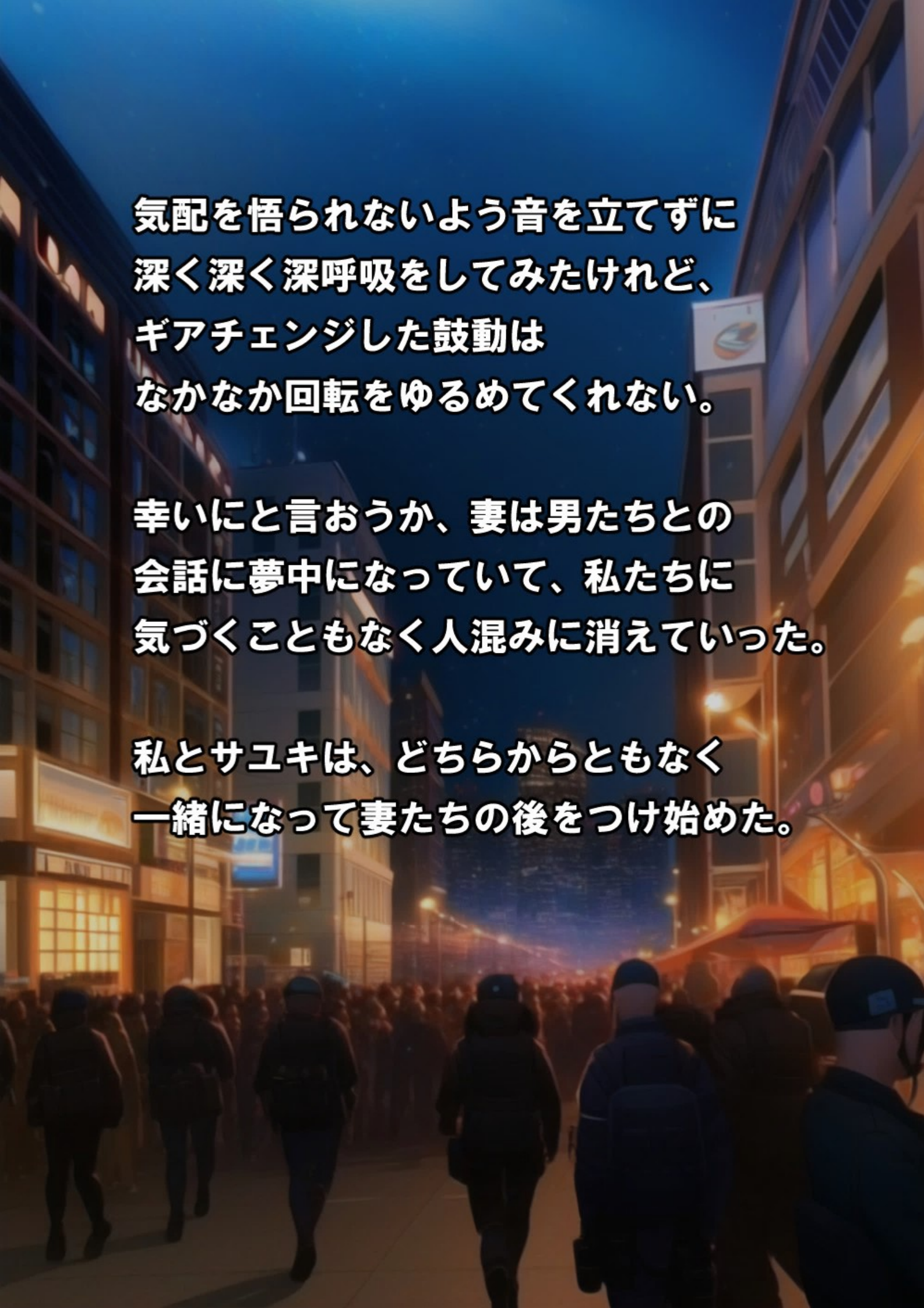
全身から汗が吹き出して、背中を冷たい  
汗が流れていく。



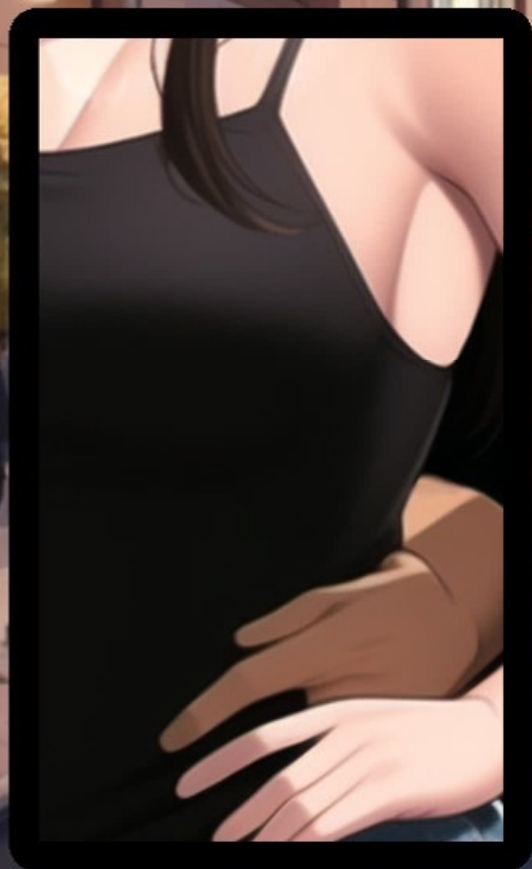
気配を悟られないよう音を立てずに  
深く深く深呼吸をしてみたけれど、  
ギアチェンジした鼓動は  
なかなか回転をゆるめてくれない。

幸いと言おうか、妻は男たちとの  
会話に夢中になっていて、私たちに  
気づくこともなく人混みに消えていった。

私とサユキは、どちらからともなく  
一緒になって妻たちの後をつけ始めた。

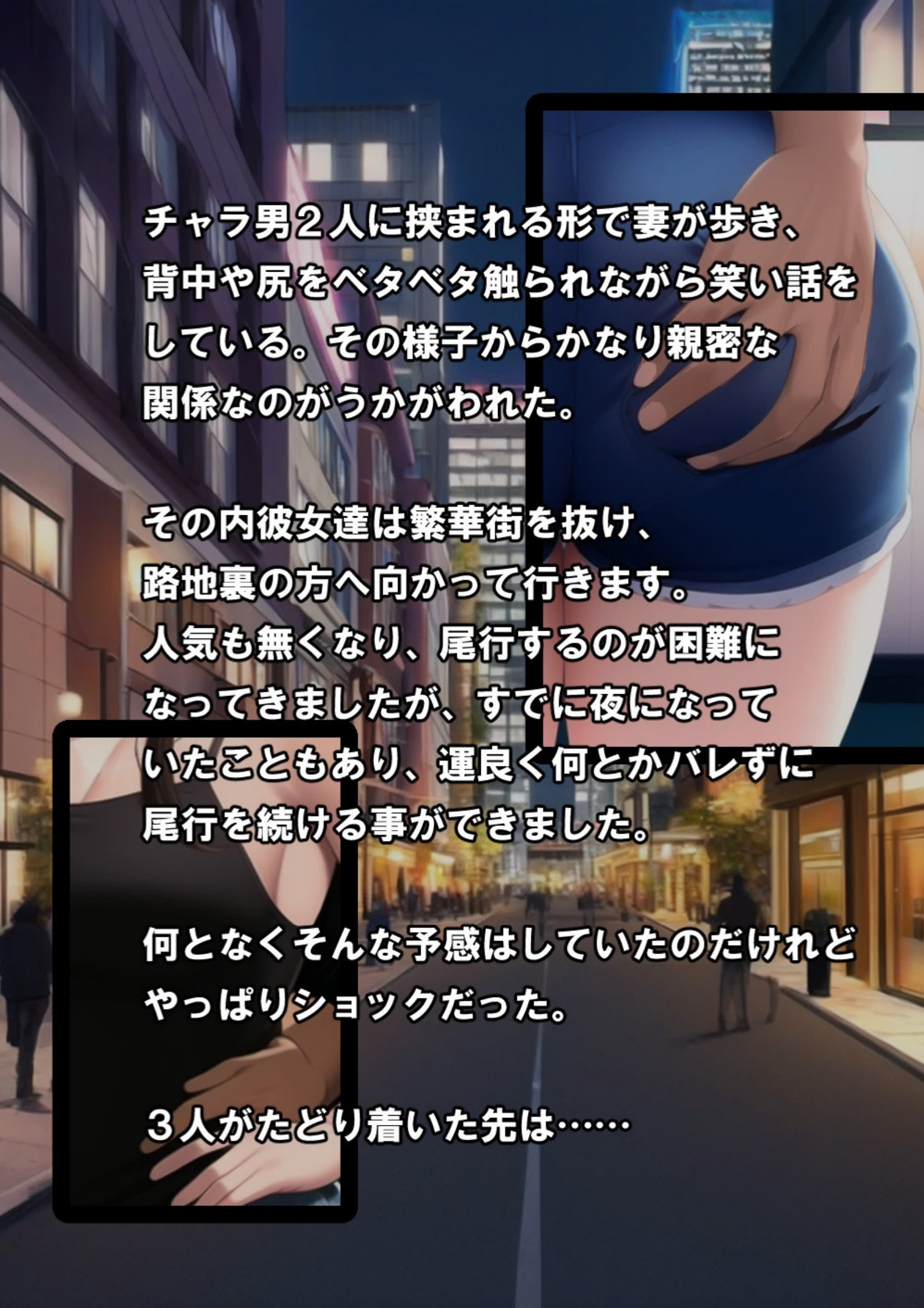






ざわ ざわ





チャラ男2人に挟まれる形で妻が歩き、  
背中や尻をベタベタ触られながら笑い話を  
している。その様子からかなり親密な  
関係なのがかがわれた。

その内彼女達は繁華街を抜け、  
路地裏の方へ向かって行きます。  
人気も無くなり、尾行するのが困難に  
なってきましたが、すでに夜になって  
いたこともあり、運良く何とかバレずに  
尾行を続ける事ができました。

何となくそんな予感はしていたのだけれど  
やっぱりショックだった。

3人がたどり着いた先は……



やはりラブホテルでした。

3人は何のためらいもなく、まるで  
カフェに入るようなスナック感覚で  
ラブホテルの中へと消えていきました。

軽い喪失感、暗たんたる気持ち心が中に  
乱気流となって渦巻く。

ULTRA 9





笹倉さん

あ、あのう……



ごめんなさい……

本当に……ごめんなさい……





そう言う、思い詰めた表情の  
サユキちゃんがポロポロと涙を流しながら  
私に頭を下げてきたのです。

突然の出来事にどうしていいか分からずに  
内心オロオロとうろたえてしまった私は、  
とりあえず落ち着ける場所に移動しようと、  
彼女の肩を抱き寄せて隣のラブホテルへ  
と移動しました。

妻と同じラブホテルに突撃する勇気が  
出なかったのが、なんとも情けないやら  
もどかしいやら……S i g h



バリキャリア妻、  
堕ちる。

